

員ヲ練リ其卒業ノ日ヲ以テ普ク之ヲ全國ノ師範學校ニ傳習シ漸次此
教科ヲ國の各學校ニ普及セン事冀望ニ堪ヘザルトコロナリ本件ハ既
ニ過日開申シテ裁定中ニ係ルモノナリト雖此報告ヲ捧クルニ臨シ謹
ンデ其概梗ヲ附陳スル事此ノ如シ

〔手書き〕
『音監開申書類』明治十四年

(五) 音楽取調掛規則および教則 明治十六年

この教科課程および教科細目は音楽学校の体裁を十分に備えたもの
で、明治二十年にほとんど手を加えることなく、東京音楽学校の教科課
程として移行した。東京音楽学校ではその後二十二年に新たな規則と教
則を制定している。

従来本掛ニ於テ傳習スルトコロノ業程ハ皆音楽取調事業上試施ス
ルトコロニ係リ一般ノ學校教科ト異ナルヲ以テ未タ確乎タル教則ヲ
定メ是ニ由テ遂次経進スベキ順序ヲ定メサリキ然リト雖トモ音楽取
調ノ事業漸ク緒ニ就クヲ以テマタ既ニ教則ヲ編成シ由テ以テ課程ヲ
設定セザルベカラザルニ至レリ是故ニ明治十五年八月廿四日ヲ以テ
教則編成ノ為メ會議ヲ開キ爾来十有餘日ニシテ音楽取調掛傳習生教
則東京師範學校本科唱歌教授細目」同附属小學校唱歌教授細目」東
京女子師範學校本科唱歌教授細目」同附属高等女學校唱歌教授細
目」同女兒小學校唱歌教授細目都合六種ノ教則ヲ編成セリ乃チ之カ
裁可ヲ仰キシニ其中音楽取調掛傳習生教則ハ同九月裁可ヲ経其他ハ
同十六年一月裁可ヲ経タリ後チ明治十六年二月音楽取調掛規則草按
ヲ属シ同廿四日ヲ以テ之ヲ稟申シ同六月廿八日裁定ヲ経テ制定スル
所即チ左ノ如シ

文部省音楽取調掛規則

第一章 總則

第一條 本掛ハ汎ク音楽ノ事項ヲ取調ベ學校用其他ノ唱歌楽曲ヲ撰
脩シ且其教方教則等ヲ審按調査スル所トス

第二條 前條ノ目的ヲ達セン為メ左ノ二項ヲ設ク

第一項 本掛中ニ音楽傳習生ヲ置キ音楽専門ノ諸學科ヲ修メシメ
以テ音楽ノ上進ヲ謀リ且將來取調ノ事業ニ就カシムベシ

第二項 東京師範學校及東京女子師範學校生徒ニ唱歌、箏、風琴、
等ヲ臨教シ以テ小學以下ノ唱歌ノ教授ニ任セシムベシ

但臨教ノ大綱ハ該學校ノ教則ニ據ルベシ

第三條 本掛ノ傳習生タル者ハ年齢十五年以上三十年以下ノ男子ニ

シテ品行端正身體健康略ホ普通ノ教育ヲ受ケタル者タルベシ

第四條 傳習生中品行端正學藝優等ノ者ニハ前一ケ年ノ勉強ニ依リ

試験ノ上手當金ヲ給與シ卒業ノ後本掛ヨリ奉職ヲ命スル事アルベ

シ

〔手書き〕『音監經伺書類』明治十七年上

總則第三條にあるように十六年から女子の入学が禁じられた。理由は
官立の教育機関で男女共学が許されていないからである。音楽取調掛だ
けは教育の内容上それを認めたが、やはり許し難いことなので男女どち
らか一方にしてはというのが文部省からの命令であった。そこで将来國
家のために役立つのは男子であるということから、女子を締め出すこと
となった。ところがそれも長く続かず、女子に教育音楽は適しており、
かつ必要であるという見解から、二十年三月には女子の入学が復活し、
その後の東京音楽学校は官立唯一の男女共学学校となった。十六年から
女子の入学を禁じたとはいえ、在校生のほぼ半数は女子伝習生である。
伊澤掛長は伝習生に発行した「音楽伝習(男生徒)取締心得」の第一條で

男女間には一線を敷き、みだりに交流することなく、伝習にはげむよう命じている。

第二章 教授規則

第一條 本掛傳習生修學科目ハ修身、唱歌、洋琴、風琴、箏、胡弓、専門楽器、和聲學、音樂論、音樂史及音樂教授法トス

第二條 修業期限ハ四ケ年ト定メ各一ケ年ヲ前期後期ニ分チテ都合八期トシ一期ヲ以テ一級ノ課程トス授業時間ハ第一年前期ヨリ第二年前期ニ至ルノ各級ハ毎週廿八時間トシ其他ノ諸級ニ在テハ總テ毎週三十時間トス

第三條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年七月十日ニ終ル之ヲ前後ノ二學期ニ分チ其前學期ハ九月十一日ニ始リ翌年二月十五日ニ終リ其後學期ハ二月廿三日ニ始リ七月十日ニ終ル

第四條 休業日ハ左ノ如シ

- 一 日曜日 毎週
- 一 秋季皇靈祭 秋分日
- 一 神嘗祭 十月十七日
- 一 天長節 十一月三日
- 一 新嘗祭 十一月廿三日
- 一 冬期休業 十二月廿五日ニ始リ
一月七日ニ終ル
- 一 孝明天皇祭 一月三十日
- 一 紀元節 二月十一日
- 一 前學期後休業 二月十六日ニ始リ

同月廿二日ニ終ル

一 春季皇靈祭 春分日

一 神武天皇祭 四月三日

一 夏期休業 七月十一日ニ始リ
九月十日ニ終ル

第五條 各級ノ學科課程左ノ如シ〔四十六頁の學科課程表を参照〕

第六條 本掛傳習生修業學科教科細目左ノ如シ

教科細目

第一年前期

修身 一週一時

小學内篇ヲ授ク

唱歌 一週一時

數字練習

數字コムマ及ダツシヲ用ヒテ長短音ノ區別等ヲ會得セシム

拍子初歩

計數及進行ニ由テ二拍子ヲ授ケ以テ小節區分ノ思想ヲ開發セシメ生徒稍々進ムニ從ヒ圓圈分割ノ法ニ由テ四分一ノ符、半ノ符、一ノ符、八分一ノ符、及其休止符等ヲ學ハシメ漸ク四分ノ四拍子ニ熟セシム

音階練習

唱歌掛圖ニ就キ又ハ黑板上ニ音階ノ圖ヲ作り階名調名及(ト)字記號ノ位置ヲ教示シ且音階ニ照シテ階名若クハ散譜ヲ指唱スル事ヲ練習セシム

記譜法初歩

音樂取調掛傳習生修業學科課程表

學年	學期	度	時	第一		第二		第三		第四	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
通計				三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
音樂教授法											
音樂史											
音樂論		八	八	樂語解釋 寫譜法		四	四	樂典			
和聲學											
專門樂器											
胡弓											
風琴											
箏											
洋琴		九	九	右手、左手、 雙手練習		四	四	調絃法 單彈法			
唱歌		三	三	單音		三	三	同上			
修身		一	一	嘉言 善行		一	一	同上			
學科											
第一											
第二											
第三											
第四											

本按音樂科課程等ハ蓋泰西學音樂科ノ教法ト大抵同様ニシテ本掛教科ヲ規定スルニハ之ニ基クテ可トスヘキニ由リ本按ノ通ニテ然ルヘシ然レドモ本邦固有ノ音樂ヲ欠クハ稍備ハラサルニ似タリ本掛傳習生卒業ノ上ハ本邦歌曲ノ改正ニモ從事スルヲ期スレハ本邦音樂ヲ課程ニ加ヘ卒業前ヨリ之ヲ修習セシムルヲ可ベス尤右ニ就テハ本邦俗樂取調等ヲ要スレハ直ニ之ヲ加フルハ難カルヘキニ由リ今日ニ在テハ先ツ本按ノ儘ニテ然ルヘシ

黒板上ニテ五線、四間、上下ノ間及短線ノ名稱ヲ會得セシメ
各線及各間ニ階名ヲ記シ之ヲ音符ニ變ジテ符號ノ活用ヲ教示
シ終ニ(ト)字記號ノ結構及位置ヲ會得セシメ且縦線及併合縦線
ヲ授ク

單音唱歌

唱歌掛圖初編第一ヨリ第十七ニ至ル歌曲ヲ練習セシム

聽音法

洋琴、風琴、「バイオリン」其他ノ一樂器ヲ用ヒテ與フルトコ
ロニ從ヒ音階ニ就テ其音ヲ指答シ或ハ階名ニテ唱答セシメ以
テ耳覺ヲ練習セシム

洋琴

一週九時

右手左手雙手練習

「バイエル」氏教則本ヲ用ヒテ右手練習及ヒ左手練習ノ兩手
法ヲ終リ雙手ノ練習ニ進ミ其第一課ヨリ第六十四課マデヲ授
ク

音樂論

一週八時

樂語解釋

音樂上ニ用フル文字ノ意義解釋等ヲ授ク

寫譜法

洋筆ノ執法及運法ヲ教授シ漸ク寫譜法ニ熟セシム

第一年後期

修身

一週一時

前期ノ續ヲ授ク

唱歌

一週十時

記譜法

樂曲ノ數字ニテ記シタルモノヲ音符ニ變シテ譜表上ニ寫シ若
クハ音符ニテ記シタルモノヲ數字ニ復スルノ法ヲ授ケ漸ク記
譜法ニ慣熟セシム

移調法

(ハ)調ヨリ(ト)(イ)(ハ)變(ロ)變(ホ)ニ移スノ法ヲ學バシム

拍子

三拍子及六拍子ヲ授ケ且諸拍子分合ノ活法ヲ習得セシム

聽音法

前期ノ法ニヨリテ稍々難キ部分ニ進マシメ且之ヲ譜表ニ書答
スル事ヲ習ハシム

單音唱歌

初編中第十八ヨリ第三十三マデノ歌曲ヲ授ク

洋琴

一週九時

雙手練習

「バイエル」氏教則本ヲ用ヒテ雙手ノ練習ヲ授ケ其第六十五
課ヨリ第一百五課ニ至ラシム

箏

一週四時

調絃法

最初第一音第三音第四音ニ基キ順八逆六ノ法ニヨリテ調絃ヲ
授ク

單彈法

單彈ノ初歩大凡五曲ヲ授ク

音樂論 一週二時

樂典

樂譜論ヨリ旋律論ニ至ルヲ授ク

第二年前期

修身 一週一時

小學外篇ヲ授ク

唱歌 一週十時

移調法

前期二次テ(ハ)嬰(ヘ)嬰(イ)變(ニ)變(ト)變(イ)ノ調ニ移スノ法

ヲ習ハシメ且橋音ヲ練習セシム

拍子

前期二次テ諸種ノ拍子活用ノ法ヲ習ハシム

音程練習

同音度及第二音度順次昇降ニ始リ第三音度第四音度ニ至ルマ

デ進歩ニ從ヒ逐次之ヲ練習セシム

高等單音唱歌

第二編中ノ歌曲大凡十曲ヲ授ク

輪唱法

簡易ナル歌曲大凡三曲ヲ用ヒテ二部輪唱ヲ授ク

洋琴 一週九時

手指運用法、長音階練習等

「ウルバヒ」氏教則本ヲ用ヒテ手指運用法ヲ授ケ其第七十

二課ヨリ第百零九課マデヲ授ケ兼テ長音階ノ各調ヲ練習セシ

箏 ム 一週三時

調絃法

(ハ)調ヨリ(ト)(ニ)(イ)(ヘ)變(ロ)變(ハ)ノ諸調ニ移ス事ヲ學ハシム

單彈法及複彈法初歩

初編中全歌曲ヲ習得セシメ兼テ複彈法ノ初歩ヲ授ク

和聲學 一週三時

和声初歩

協音、不協音、大譜表ノ解説、音階ノ比較等ヲ授ケ和声ニ入

ルノ階梯トス

音樂論 一週二時

樂典

和声論ヨリ拍子論ニ至ルヲ授ク

第二年後期

修身 一週一時

前期ノ續ヲ授ク

唱歌 一週九時

拍節法

各種ノ拍子ヲ拍子其拍名ヲ呼ハシメテ實際ニ活用スルヲ學ハ

シム

音程練習

第五音度ヨリ第八音度マデヲ授ク

諸課復習

既ニ教授シタル科目ニ就キ適宜ニ之ヲ復習セシム

高等單音唱歌

前期ニ次テ大凡五曲ヲ練習セシム

輪唱法

相當ノ歌曲大凡三曲ヲ用ヒテ三部輪唱ヲ習ハシム

複音唱歌

唱歌掛圖中相當ノモノ大凡三曲ヲ用ヒテ複音練習ヲナサシム

洋琴

一週九時

前期ノ法ニヨリテ「ウルバヒ」氏教則本第百十課ヨリ第百四十

六課マデヲ授ク

箏

一週三時

單彈法

高等ノ歌曲大凡五曲ヲ授ク

複彈法

胡弓

一週四時

唱歌掛圖初編中第廿四曲マデヲ授ク

最初用絃ノ法ヲ授ケ漸次唱歌掛圖中ノ歌曲ヲ練習セシム

和声學

一週二時

音程三和音等

音程及其轉回、七音ノ性質、三和音ノ解剖、長短音階ノ三和

音、三和音結合ノ規則等ヲ授ケ而シテ之ヲ唱和セシム

音樂論

一週二時

音樂理論

音ノ理、自然音ト樂音トノ關係、發音機ノ講解等ヲ授ク

第三年前期

修身

一週一時

論語ヲ授ク

唱歌

一週八時

複音唱歌

適當ナル歌曲ニ就テ大凡五曲ヲ授ク

三重音唱歌

洋琴

一週八時

唱歌掛圖中相當ノモノ大凡三曲ヲ撰用シテ之ヲ授ク

粧飾彈法、短音階練習等

箏

一週三時

「ウルバヒ」氏教則本ヲ用ヒテ諸種ノ粧飾彈法ヲ授ケ其第百

四十七課ヨリ第百六十五課ニ至リ兼テ短音階ヲ練習セシム

複彈法

風琴

一週二時

初編中第廿五ヨリ第三十三マデノ歌曲ヲ授ク

歌曲練習

胡弓

一週四時

初編中第十七マデノ歌曲ヲ授ク

歌曲練習

前期ニ次テ初編中ノ全歌曲を學バシム

和声學

一週二時

三和音轉回、七ノ和絃等

三和音轉回及移法、七ノ和絃、其解決等ヲ授ケ而シテ之ヲ唱

和セシム

音樂論 一週一時

音樂理論

音樂上ノ情款、及修身ニ係ル理ヲ講究セシム

音樂史 一週一時

本邦及歐洲音樂史

本邦音樂ノ沿革、歐洲古代音樂ノ沿革等ヲ授ク

第三年後期

修身 一週一時

前期ノ續ヲ授ク

唱歌 一週八時

三重音唱歌

相當ノモノ五曲ヲ授ク

洋琴 一週八時

粧飾彈法、歌曲練習等

前期ノ法ニヨリ「ウルバヒ」氏教則本第百六十六課ヨリ百八

十四課マデヲ授ケ兼テ唱歌掛圖中ノ歌曲其他進行曲聯彈曲等

ヲ練習セシム

箏 一週三時

複彈法

高等ノモノ大凡十四曲ヲ授ク

風琴 一週二時

歌曲練習

初編中第十八ヨリ第廿四マデノ歌曲ヲ練習セシム

專門樂器 一週五時

管絃樂器及箏、胡弓

各生徒ノ望ニ由リ「バイオリン」「テナ」「セロ」「ダブルベ

ス」「フリユート」「クラリオネット」以上各種ノ一ヲ專門ト

シ適當ノ教則本ニ就テ之ヲ練習セシム但シ箏胡弓ヲ專門トス

ル者ハ他ノ方法ニ由テ之ヲ授ク

和聲學 一週二時

反覆進行、靜止法等

前期ニ次テ反覆進行、靜止法等ノ如キ高尚ナル部ニ進マシム

音樂史 一週一時

本邦音樂ノ沿革前期ノ續及歐洲近代音樂ノ沿革等ヲ授ク

第四年前期

修身 一週一時

前期ノ續ヲ授ク

唱歌 一週八時

四重音唱歌

相當ノモノ大凡五曲ヲ授ク

洋琴 一週八時

半音階練習歌曲練習等

「ウルバヒ」氏教則本ヲ用ヒ半音階ニ就キ第八音第六音等ノ

練習ヲ授ケ其第八十五課ヨリ第百九十七課ニ至リ兼テ高等ノ

學校用歌曲ヲ練習セシム

箏 一週三時

復彈法

前期二次テ更ニ高等ノモノ十曲ヲ授ク

風琴 一週二時

歌曲練習

初編中第廿五ヨリ第三十三マデノ歌曲ヲ授ケ兼テ風琴ヲ和声

上ニ用フル事ヲ學バシム

専門楽器 一週五時

前期ノ法ニヨリ相當ノ楽曲ニ就キテ之ヲ練習セシム

和声學 一週二時

轉調、掛留法、調和法等

前期二次テ轉調、掛留法、等ヨリ楽曲調和ノ法ニ至ルヲ授ク

音樂教授法 一週一時

唱歌教授法ヲ授ク

第四年後期

修身 一週一時

前期ノ續ヲ授ク

唱歌 一週三時

高等ノ歌曲等ヲ授ケ且既ニ學習セシトコロヲ復習セシム

洋琴 一週六時

前期ノ法ニヨリテ「ウルバヒ」氏教則本第百九十八課ヨリ第二
百零九課ニ至リ且各種ノ歌曲ヲ授ケ又既ニ學習セシトコロノモ
ノヲ復習セシム

専門楽器 一週五時

諸種ノ楽曲ニ就キ漸ク合奏ニ熟セシム

和声學 一週二時

楽曲製作ノ法ヲ授ク

音樂教授法 一週十三時

洋琴風琴箏胡弓或ハ「バイオリン」等ノ諸楽器ヲ用ヒテ唱歌ヲ

實地ニ教授スルノ方法ヲ學バシム

第七條 東京師範學校生徒唱歌教授細目左ノ如シ

唱歌教授細目

第八級

音樂ノ大意

音樂ノ釋義ヨリ起リ音樂ノ總論ヲ授クルニ止ル

數字練習

數字コムマ及ダツシヲ用ヒテ長音短音等ヲ練習セシム

音階練習

音階ニ由テ樂音ノ高低ヲ教ヘ且階名及調名ノ用法ヲ練習セシム

記譜法

五線、四間、上下ノ間、及短線、(ト)字記號、音符休止符及縦線

等ヲ授ケ記譜法ニ熟セシム

拍子

圓圈分割法ニ由テ全音符ヨリ八分一二至ルノ音符及其休止符ヲ
授ク

單音唱歌

唱歌掛圖初編第一ヨリ第十五ニ至ルノ歌曲ヲ授ク

第七級

記譜法

嬰變本位ノ記號、連結、反覆、反始、終止、延聲、強弱、増減等ノ記號ヲ授ク

移調法

嬰ノモノ三種及變ノモノ三種ヲ授ク

單音唱歌

初編第十六ヨリ第廿四ニ至ルノ歌曲ヲ授ク

風琴

風琴ハ専ラ耳カラ練ルノ一助ト爲シ唱歌ニ就テ之ヲ兼修セシメ別ニ教則本ヲ用ヒズ

第六級

移調法

嬰ノモノ四種及變ノモノ四種ヲ授ケ又橋音ヲ練習セシム

單音唱歌

初編第廿五ヨリ第三十三ニ至ルノ歌曲ヲ授ク

風琴

前期ノ方法ニ從ヒ更ニ之ヲ練習セシム

第五級

樂譜論

樂譜ノ釋義、大譜表ノ解剖、高、中、次中及低音ノ理、同記號ノ用法、鹽梅其他樂譜ニ關スル諸般ノ要項ヲ授ク

拍子論

拍子ノ釋義計數及拍名ニ依リ拍子ノ取り方、樂句、樂韻大中小節等ノ分ケ方其他拍子ニ關スル要旨ヲ授ク

旋律論

旋律ノ釋義旋行ノ種別、長短音階ノ區別、關係及其特質等ヲ授ク

單音唱歌

高等ノモノ五曲ヲ授ク

輪唱法

相當ノ歌曲ニ就テ二部輪唱ヲ授ク

風琴

既修ノ歌曲ニ就キテ之ヲ兼修セシム

第四級

和聲學ノ大意

音程

同音度ヨリ第八音度ニ至ルヲ授ク

音程轉回

第二音度ノ轉回シテ第七音度ト爲ルヨリ第八音度ノ轉回シテ同音度ト爲ルニ至ルヲ授ク

複音唱歌

近易ノモノ五曲ヲ授ク

風琴

和聲學ノ大意

唱歌上及和聲上ニ用フル所ノ樂曲ニ由テ練習セシム

第三級

七音ノ性質

主和絃、属和絃、次属和絃、導音、中和絃、次中和絃、上主和絃、ノ特質及効用ヲ授ク

協音不協音

協音及不協音ノ理、其區別、及其作用ヲ授ク

三和音

三和音ノ解剖、其位置及其轉回ノ規則ヲ授ク

複音唱歌

前期ニ比スレバ更ニ高尚ノモノ五曲ヲ授ク

風琴又ハ箏

前期ノ法ニ由リテ之ヲ授ク

第二級

小學唱歌教授法

小學各科ニ適用スベキ唱歌教授ノ要法ヲ授ク

三重音唱歌

相當ノモノ五曲ヲ授ケテ三重音唱歌ノ大意ヲ知ラシム

風琴又ハ箏

風琴又ハ箏ヲ學校用唱歌ニ應用スルノ方法ヲ授ク

第一級

實地唱歌授業

第八條 東京女子師範學校生徒唱歌教授細目左ノ如シ

唱歌教授細目

第八級

數字練習

數字コムマ、及ダツシヲ用ヒテ長音短音等ヲ練習セシム

音階練習

音階ニ依リテ樂音ノ高低ヲ教ヘ且階名及ヒ調名ヲ學バシム

拍子

圓圈分割法ニ依リテ全音符ヨリ八分一二至ルノ音符及ヒ其休止

符ヲ授ク

記譜法

五線、四間、上下ノ間、及ヒ短線、(ト)字記號ノ位置、縦線等ヲ

授ケ漸ク記譜法ニ慣熟セシム

單音唱歌

唱歌掛圖初編ニ依リ第一ヨリ第十三ニ至ルノ歌曲ヲ授ク

第七級

拍子練習

既ニ習得シタル所ノ諸拍名ヲ綜合シ之ヲ樂曲ニ適用スル事ヲ學

バシム

記譜法

嬰、變、本位ノ記號、連結、反覆、反始、終止、延声、強弱、

増減等ノ記號ヲ授ク

移調法

嬰ノモノ三種及ヒ變ノモノ三種ヲ授ク

單音唱歌

初編第十四ヨリ第十九マデノ歌曲ヲ授ク

風琴

風琴ハ専ラ耳カラ練ルノ一助トナシ唱歌ニ就テ之ヲ兼修セシメ
別ニ教則本ヲ用ヒズ

第六級

移調法

嬰ノモノ四種及ヒ變ノモノ四種ヲ授ケ且橋音ヲ練習セシム

音程練習

同音度ヨリ第四音度マデヲ授ク

單音唱歌

初編第廿ヨリ第廿六マデノ歌曲ヲ授ク

風琴

前期ノ法ニ依リ更ニ之ヲ練習セシム

第五級

音程練習

第五音度ヨリ第八音度マデヲ授ク

拍節法

拍子ノ釋義計數及ヒ拍名ニ依リ拍子ノ取方其他拍子論ニ関スル
要旨ヲ授ク

單音唱歌

初編第廿七ヨリ第三十三マデノ歌曲ヲ授ク

彈琴

調絃法

(ハ)調ニテ調絃ノ法ヲ習ハシム

單彈法

唱歌集初編第一曲ヨリ第十三曲マデヲ授ク

第四級

音階比較

長短音階ノ區別、關係及ヒ其特質等ヲ授ク

和声大意

音程

同音度ヨリ第八音度ニ至ルヲ授ク

音程轉回

第二音度ノ轉回シテ第七音度トナルヨリ第八音度ノ轉回シテ

同音度トナルニ至ルヲ授ク

單音唱歌

高等ノモノ七曲ヲ授ク

輪唱法

相當ノ歌曲ニ就テ二部輪唱ヲ授ク

彈琴

調絃法

(ハ)調ヨリ(ト)(ニ)(イ)(ハ)變(ロ)變(ホ)ノ諸調ニ移ス事ヲ習ハシム

單彈法

初編第十四曲ヨリ第廿四曲マデヲ授ク

第三級

大譜表ノ解説

高、中、次中、及ヒ低音ノ別ヲ授ケ且其記號ヲ學バシム

和声大意

七音ノ性質

主和絃、屬和絃、次屬和絃、導音、中和絃、次中和絃、上主

和絃ノ特質及ヒ其効用ヲ授ク

協音不協音

協音及ヒ不協音ノ理其區別及ヒ其作用ヲ授ク

輪唱法

前期ノ法ニ依リテ三部輪唱ヲ授ク

複音唱歌

近易ノモノ五曲ヲ授ク

彈琴

單彈法

初編第廿五曲ヨリ第三十三曲マデヲ授ク

複彈法

近易ノモノ大凡五曲ヲ授ク

第二級

小學唱歌教授法

小學各級ニ適用スベキ唱歌教授ノ要法ヲ授ク

三重音唱歌

相當ノモノ大凡五曲ヲ授ク

彈琴

單彈法

唱歌集第二編中ノモノ大凡五曲ヲ授ケ且箏ヲ學校唱歌ニ適用

スルノ法ヲ學バシム

複彈法

前期ニ比べレバ稍高尚ノモノ大凡八曲ヲ授ク

第一級

實地唱歌授業

第三章 入學規則

第一條 本掛傳習生ハ臨時ニ募集スルモノニシテ豫メ其期ヲ定メズ

第二條 本掛ニ入學セント欲スル者ハ試業規則ニ依リ學力檢定ノ上

之ヲ許ス

但シ生徒ハ総テ通學生トス

第三條 本掛ニ入學セント欲スル者ハ入學願書及履歷書ヲ出スベシ

其書式左ノ如シ

入學願書式(用紙美濃紙)

私儀音樂傳習志願ニ有之候處今般御掛ニ於テ傳習生募集相成候ニ就テハ入學試驗相受申度依テ履歷書相添此段願上候也

何國何區何町何番地

藉族

何某子弟或ハ戶主

本人 姓名 印

何年何ヶ月

現住所

右之者從來之行狀ニ関シ不都合ノ廉無之候條拙者證人ニ相立致保證候也

東京府何區何町何番地

藉族

年月日 證人 姓名 印

文部省

音楽取調掛

御中

履歷書式(用紙美濃紙)

生所何々 現住所何々 何年月日何處ノ誰ニ就キ何學修業何科目或ハ何書ヲ修メ何年月日何々ノ事故ヲ以テ退廢學又ハ何學ニ轉ス云々 何年月日何校又ハ何某ニ從ヒ何々ヲ修メ何期又ハ何等級卒業云云 何年月日ヨリ何年月日マテ何業經營又ハ何件ニ從事云云 何年月日ヨリ現今マテ何學又ハ何藝從事又ハ何處ニ就職云云 (自己履歷中賞罰等ニ関スルモノアレバ詳細之ヲ記入スベシ) 右之通ニ有之候也 年 月 日	籍族 本人 姓名 生年何年月日 現齡何年何ヶ月
--	----------------------------------

第四條 入學許可ヲ得タル者ハ親戚一名及東京居住ノ戸主ニシテ丁年以上ノ者一名都合二名ノ證人ヲ立テ左ノ書式ノ證書ヲ出スベシ

入學證書式(用紙美濃紙)

私儀今般音楽志願ヲ以テ御掛へ入學許可相成候ニ就テハ諸規則堅ク相守専心勤學可仕ハ勿論卒業ノ後ハ御掛ノ命ニ從ヒ就職可仕此段相誓候也 住所 籍族 姓名 年月日生 前書何誰在學中一切ノ事件ハ私共負擔可仕候乃證書如此候也 住所 籍族 證人 姓名 年月日生 住所東京府下何區何町何番地 籍族 同 姓名 年月日生 音楽取調掛長何某殿 尚向後轉居改印等致候節ハ速ニ御届書可差出候也	住所 籍族 姓名 年月日生 住所 籍族 證人 姓名 年月日生 同 姓名 年月日生
---	---

第四章 試業規則及卒業證書
 第一條 試業ヲ分チテ入學試業學級試業ノ二種トス

第二條 入學試業ハ傳習生入學ノ際之ヲ施行ス其科目概ネ左ノ如シ

讀書

日本外史ノ類

作文

書翰文、記事文、片假名文ノ類

算術

比例以下

音樂

雅樂器 (雅樂ヲ既習セシ者ニ限り之ヲ課ス)

箏 (箏曲ヲ既習セシ者ニ限り之ヲ課ス)

清樂器 (清樂ヲ既習セシ者ニ限り之ヲ課ス)

西樂器 (西樂ヲ既習セシ者ニ限り之ヲ課ス)

俗樂器 (俗樂ヲ既習セシ者ニ限り之ヲ課ス)

發音及聽音 (初新ノ者ニ限り之ヲ課ス)

英佛獨書 (既習ノ履歴アル者ニ限り之ヲ課ス)

讀本ノ類

第三條 學級試業ハ每學期ノ終ニ於テ之ヲ施行シ其學期中ニ履修セ

シ學業ノ成績ヲ檢定スルモノトス

第四條 學級試業ハ各教科皆百點ヲ以テ定點トシ其平均點五十以下

ニ至ル者若クハ一科ノ點數四十二滿タザル者アルトキハ進級ヲ許

サズ

但修身ノ評點ハ平素ノ行狀點ヲ通算シテ増減スルモノトス

第五條 在學中品行端正ニシテ規定ノ學科試業ヲ完了シタル者ニハ

卒業ニ至リ左ノ書式ノ證狀ヲ附與スヘシ

掛印

籍族

姓名

何年何ヶ月

右者本掛制定ノ教科ヲ卒リ成規ノ試業ヲ完了セリ依テ卒業證狀ヲ附與スル者也

年月日

音樂取調掛長姓名 印

第五章 傳習生心得

第一條 凡ソ音樂ハ德性ヲ涵養スルノ一端ナリ故ニ學生モ亦タ身ヲ

修メ行ヲ正シクシテ其基本ヲ立テサル可ラス基本ヲ立テ然ル後自

ラ音律ノ端正穩雅ナルヲ得ルナリ宜ク左ノ諸項ヲ服膺スベシ

第一項 尊王愛國ノ志氣ヲ存養シテ之ヲ失フ事勿レ

第二項 師長ヲ崇敬シ訓誨ヲ遵守シ妄ニ私意ヲ挾ム事勿レ

第三項 僚友ニ交ハルニ信義ヲ盡シ學藝ノ長ニ誇ル事勿レ

第四項 言語ヲ慎ミ動作ヲ誠メ能ク規矩ヲ踏遵シ鄙猥陋劣ノ毀ヲ

招ク事勿レ

第五項 思慮ヲ精クシ懈惰ヲ警メ業ヲ勤メ術ヲ究メ始メ有テ終リ

無キ事勿レ

第二條 音樂ヲ修ムルモノハ最モ身體健康ナルヲ要ス可シ否ラザレ

ハ稟性ノ美アリト雖モ其業ヲ成ス事能ハズ因テ左ノ諸項ヲ遵守ス

ベシ

第一項 事ヲ成スハ勉強忍耐ニアリ音樂ハ最モ勉強ノ精神ヲ以テ

練習セサル可カラス己ノ才敏ヲ恃ミ容易ニ輕視スル事勿レ平素其心身ヲ健全ニシテ勉強忍耐ノ力ヲ養フベシ

第二項 声音ヲ發シ心思ヲ運スルハ平生ノ攝養ヲ慎ミ身体ノ運動ヲ適度ニシ居室用具ヲ清潔ニシ其精神ヲ養フニ在リ苟モ放佚懶惰ノ所行アルヘカラス

第三條 猥リニ教場ニ出入シ或ハ他人ノ妨害ヲ爲シ或ハ許可ヲ得スシテ備付ノ樂器書籍等ヲ使用スヘカラサル事

第四條 若シ疾病其他止ヲ得ザル事故アリテ課業ヲ欠クトキハ其次席ノ事由ヲ記シ保證人連署ノ上遅クトモ翌日マデニ届出ツベキ事

第五條 上所受業中ハ常ニ袴ヲ着クベキ事
右之外臨時可心得事項ハ其時々揭示スベシ

第六章 傳習生手當金規則

第一條 手當金ハ第一章第四條ノ旨ニ從ヒ傳習生入學後一ケ年ヲ經テ試験ヲ舉行シ品行端正學力優等ノ證アル者ニ限り之ヲ給與スベシ

第二條 手當金ハ一ケ月金六圓以下ト定メ毎月末ニ至リ之ヲ給與スベシ

第三條 既ニ手當金ヲ給與セシ者ニシテ怠惰不品行若クハ規則ヲ犯シタルトキハ其給與ヲ止メ既給ノ金額ハ一時ニ之ヲ辨償セシムベシ

但本人之ヲ辨償スル能ハザレバ其證人ヨリ辨償セシムヘシ

第四條 願ニ依リテ退學スル者モ亦第三條ニ準ジテ處分スベシ

第五條 手當金ヲ受クル者ハ左ノ書式ノ證書ヲ出スヘシ

證 (用紙證券界紙)

今般手當金御給與可被下旨難有致領承候然ル上ハ益々品行ヲ修メ學業ヲ勵ミ御主意ヲ遵奉可仕候萬一御規則第六章第三條及第四條ノ場合ニ立到候節ハ拜受ノ金額御規定之通悉皆辨償可致候此段相誓候也

籍族

年月日

音樂傳習生

姓名

印

前書何誰儀自今手當金致拜受候ニ就テハ厚ク御主意ヲ遵奉可爲致萬一御規則第六章第三條及第四條ノ場合ニ於テ本人辨償金等相滯候節ハ拙者共ヨリ速ニ辨償可致候此段保證仕候也

住所

籍族

證人

姓名

印

年月日

住所東京府下何區何町何番地

籍族

證人

姓名

印

音樂取調掛長某殿

第七章 書籍器械使用規則

第一條 職員ハ其職務上必要ノ書籍器械ヲ借用スル事ヲ得但シ之ヲ

借用スルトキハ書籍及器械係ニ備フルトコロノ備用證印簿ニ定式ノ如ク記載捺印スベキモノトス

附借用ノ書籍若クハ器械ハ使用ヲ了レバ速ニ返納スベキハ勿論毎年七月十一日ヨリ同十五日迄ニ一旦悉皆返納スベシ但シ時宜ニ由テハ臨時返納セシムル事アルベシ

第二條 生徒ハ容易ニ得難キ書籍若クハ器械ハ之ヲ借用スルヲ得又其貧者ハ願ニ依リ自餘ノ教科用書籍若クハ器械モ之ヲ借用スルヲ得但借用ノ節ハ定式ノ借用證書ニ擔當教員ノ檢印ヲ受ケ之ヲ書籍及器械係ニ差出スベシ

附借用ノ書籍ハ學級試業終ルノ後返納スベキモノトス

第三條 生徒修學上必須ノ參考用書籍モ本掛備付ノ分ハマタ之ヲ借用スル事ヲ得

第四條 凡ソ書籍若クハ器械ヲ借用スル者ハ之ヲ丁寧ニ使用スベシ若シ之ヲ毀損汚染若クハ亡失スルトキハ其現物又ハ代價ヲ以テ辨償セシムベシ

第五條 借用ノ書器ヲサラニ相貸借スルヲ許サス

第六條 借用ノ書器ハ掛長ノ特許ヲ得ルニ非ンバ之ヲ外ニ携出スルヲ得ズ

第八章 罰則

第一條 凡ソ生徒規則告諭等ニ違背スル者ハ之ヲ罰ス

第二條 罰科ハ拘止、退學ノ二種トス

第三條 拘止ハ課業後二時間以下教場ニ止留スルモノト爲シ退學ハ本掛傳習生ヲ除名シ且相當ノ處分ヲ爲スモノトス

第四條 過失錯誤ニ出ル科モ其事由ヲ酌量シテ其處分ヲ爲スベシ

第五條 不品行怠惰放佚ノ行狀アル者ハ速ニ退學ヲ命スベシ

第六條 數度説諭シテ尚ホ改悔セザル者或ハ成業ノ見込ナキモノハ退學ヲ命スベシ

第七條 故意ニ書器ヲ汚染破毀スル者ハ相當ノ罰ニ處スベシ

第八條 出入進退禮節ヲ失スル者ハ之ヲ罰ス

〔手書き〕

〔音監經伺書類〕明治十七年上

(六) 各府県派出音楽伝習生の募集

十四年の音楽取調掛報告で伊澤修二が述べていたように彼の構想の中には、小学校の唱歌教員専修課程を設ける案も練り上げられていた。伊澤は全国の公立学校における唱歌授業の一刻も早い実施のためには、すでに小学校の教員で唱歌授業を希望する者を養成する方法が近道であると考へた。明治十四年十二月、開所以来の音楽取調への実績をふまえて、各府県に希望者の選出を呼びかける伺い文を本省普通学務局へ提出した。伺い文は音楽取調掛監事、神津専三郎が記述している。

當掛設立以降音楽上ノ事項段々取調候処音楽ノ研究ハ理論ト技術トヲ併要シ事頗ル重件ニ屬スト雖從來所得ノ成果ニ依リ音律ニ彼我ノ別無キハ既ニ判明相成我固有ノ樂器ヲ以テスルモ彼西洋樂器ヲ以テスルモ其音律ハ殆ド同一ニ歸スルハ實事ニ於テ證明スルヲ得ル所ニ有之又近日ニ至リ彼國數千年前ニ屬スル希臘ノ古樂ト今日我邦ノ雅樂ト全ク相協フ者アルヲ發見致候是ニ由テ之ヲ觀ルトキハ音樂ノ古今東西ヲ問ハズ皆一途ニ歸スルハ蓋シ人ノ性情ノ自然ニ原由スルノ明證ト被存候